

造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることのできる生徒の育成 －教科の目標と内容の系統性に着目した題材構想と個に応じた支援の工夫－

研究構想図

長期研修員 亀井 章央

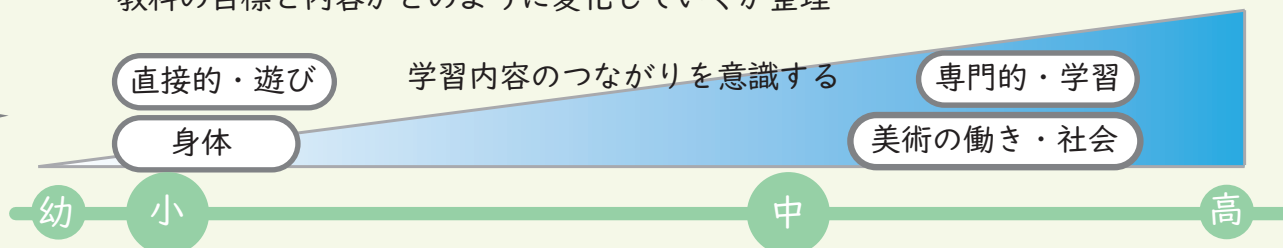
教師の思い・・・表現方法や材料選択の自由度が高い中でも、深く学ぶ生徒を育みたい。
既習事項を十分に生かして表現に取り組み、多様な表現ができる生徒を育みたい。

教師の課題・・・子供の選択・決定の自由度が高いため、教師の個に応じた支援が難しい。
生徒の課題・・・造形的な見方・考え方を十分に働かせられず、学習が終了してしまう生徒もいる。

系統性を意識

教科の目標と内容を整理する

学習指導要領を基に幼児教育から小学校、中学校の表現領域の整理
教科の目標と内容がどのように変化していくか整理



題材の構想

造形的な視点を明確にして、題材構想する

A 表現（1）ア 絵（平面作品）の系統性の一例

小学校高学年
形がつくりだす動き、色の調子の多彩さ、材料の質感による効果、それらが組み合わせられて生まれる変化。形や色が互いに響き合う配置、奥行きを感じ、色の組合せによる強さ

中学校1年
形や色彩を全体と部分との関係で捉えさせるなど、空間や余白などを生かした効果的な構成・構図や配色などの創造的な画面づくり

中学校2・3年
視点の工夫や形の線の強弱、直線や曲線などを工夫したり形を縮小や拡大したりするなど表現してみたい構成を試み、自分の思いに近い表現の構成や構図をつくっていく

本時の支援

個に応じた支援の具体化

造形的な視点を意識できるような支援

共感・称賛

① 「いいね」「素晴らしい」「面白い」等

主題を問う

② 「何を表しているの？」

表現意図を問う

③ 「どうしてそういう表し方をしているの？」

造形的な視点を意識化させる

④ ○○を表す工夫をしているところは？

表したいことが
はっきりと
みえてきた！

教師が系統性を意識して題材の構想をすることで、授業中の個に応じた支援が具体化し、表現方法や材料の選択が自由になっても表現を深めることができる。